



考える、 備える

大雨・台風から 身を守る

福岡県内では、平成29年九州北部豪雨以降、毎年のように大雨や台風による災害に見舞われており、大雨特別警報が発表されるような猛烈な雨やまとまった雨は年々増加傾向にあります。

一方で、雨の降らない日も増加しています。雨の降り方が極端になり年々災害のリスクが高まっていくと考えられています。

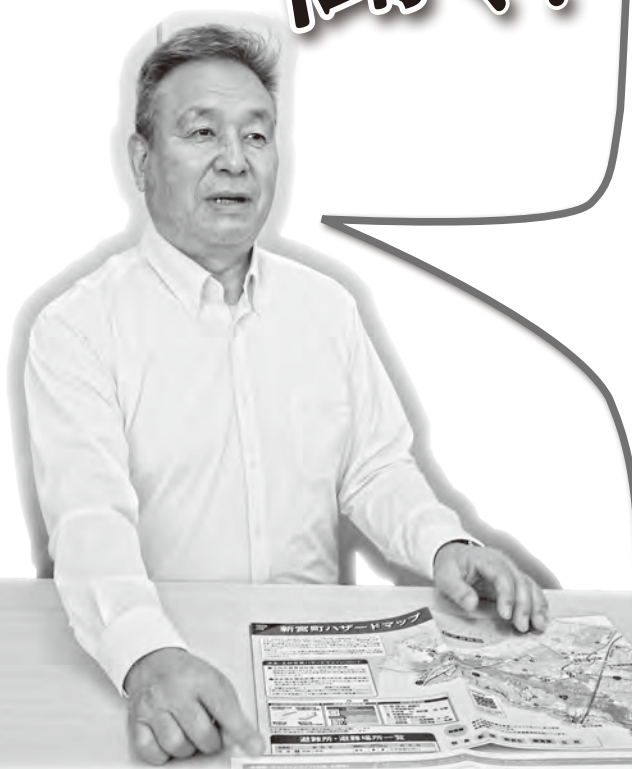
また、梅雨期間の降水量は年間の3〜4割を占め、低気圧や前線の影響を受けやすいことから、この時期は大雨への備えが必要です。

大雨や台風による河川の増水や土砂崩れなどから大切ないのちを守るためには、ハザードマップを確認したり災害時の個人の防災行動計画である「マイ・タイムライン」を作成したりするなど、いざという時にどのような行動をとれば良いかを考え、平時から準備をしておくことが大切です。

いつ来るかわからない災害に備え、今できることを家族みんなで考えてみましょう。

防災専門官に

聞く!



▲地域協働課 森防災専門官

私は防災専門官として新宮町の各行政区などで防災講話を行っています。その中で気になっていることがあります。「全戸配布しているハザードマップを見たことがありますか」と質問をすると半数ぐらいの人が手を挙げてくれます。いいかえると残りの人は見たことがないということになります。あなたはですか。

ハザードマップは身を守るための情報を提供するものです。地図だけを見る人もいますが、地図以外にも防災についてさまざまな情報を記載していますので、すべてのページを見て欲しいです。

表紙には災害時の緊急連絡先、裏表紙には防災情報を調べることができるアプリなどを記載しています。1ページには災害に備えて、2ページには地域でのつながりを、3、4ページには避難について、5、6ページには洪水・土砂災害、7、8ページには地震・津波、9ページには高潮について記載しています。地図は洪水・土砂災害ハザードマップ、津波ハザードマップ、高潮ハザードマップ、そしてマイ・タイムラインの表が備えられています。

一番身近ですぐにできる防災は、家族で話し合うことではないでしょうか。大人は大人の目線で、子どもは子どもの目線で、高齢者は高齢者の目線で見る必要があります。例えば、非常持出品をどうするか、どこに避難するか、どのタイミングで避難するか、どこを通過して避難するか、家族間の連絡はどうするかなど災害が発生する前に話し合っておくことが大事です。その内容をマイ・タイムラインに入ればよいと思います。

マイ・タイムラインを作ってみよう

マイ・タイムライン(台風・大雨時)とは？

台風や大雨が接近しているとき、余裕をもって安全に避難をするために、自分自身がとる防災行動を時系列で整理し、とりまとめる行動計画です。

町などから発表される防災・避難情報をもとに、いつ・どのタイミングで、どのような防災行動をとるのかを考え、自分の家族や生活環境に合わせたマイ・タイムラインを作成しましょう。

※マイ・タイムラインの用紙は令和4年のアクティブ新宮9月号に併せて全戸配布しています。町ホームページでもダウンロードできます。

次のページを参考に、実際にマイ・タイムラインを作ってみましょう

マイ・タイムライン作成のポイント

ポイント1 ハザードマップを確認する

町が作成したハザードマップで、自宅や職場、学校などがどれくらい危険なのかを確認しましょう。また、避難経路に危険な場所がないか確認しましょう。

ポイント2 情報収集手段を確認する

気象庁が発表する気象情報と町が発令する避難情報が、避難の準備や開始のタイミングを決めるめやすとなります。テレビやインターネット、SNSなどで防災情報を収集する手段を確認しましょう。

ポイント3 避難行動を開始するめやすを決める

いつ避難行動を開始するかを決めましょう。避難のタイミングは、「家庭に高齢者や乳幼児がいる」「避難所が遠い」など、家庭の事情を踏まえて設定することが大切です。

ポイント4 避難時の行動を家族で確認する

「いつ、誰が、何をするのか」を考えておき、家族のそれぞれがこういった行動パターンをとるのか想定しておきましょう。とるべき行動を箇条書きし時系列に並べて、行動に無理がないか、かかる時間を考えて、余裕を持って行動できるようにしておきましょう。

マイ・タイムライン(大雨・台風時)の例

家族構成	 Aさん宅の場合 夫(85) 妻(83)  Bさん宅の場合 夫(27) 妻(26) 子(1)	
世帯の状況	・2階建ての1軒家 ・川のそばで1メートルの浸水が予想される ・息子(59)が近くに住んでおり、日中は自宅で仕事をしている	・マンションの7階で浸水の可能性は少ない ・日中は家に妻と子2人きり ・夫は日中町外で仕事をしている
平常時	・非常持出品、備蓄品の準備をする ・ハザードマップで自宅の危険度を確認する ・家族の避難行動、避難先、避難経路を確認する	・非常持出品、備蓄品の準備をする ・ハザードマップで自宅の危険度を確認する ・家族の避難行動、避難先、避難経路を確認する
警戒レベル1 早期注意報	・家の周りを片付ける ・排水溝を掃除する ・テレビやラジオで情報を集める ・スマートフォンや携帯電話の充電 ・常備薬、お薬手帳の準備	・ベランダを片付ける ・テレビやスマートフォンで情報を集める ・ミルクやおむつ、離乳食などが十分にあるか確認する (足りなければ近所のお店に買いに行く)
警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報	・外の状況を確認する ・避難の準備を始める ・息子と連絡を取り合う	・夫と連絡を取り合う ・カセットコンロを準備する ・お風呂に水を貯めておく ・スマートフォンやモバイルバッテリーを充電する
警戒レベル3 高齢者等避難	・自主避難所が開設されたら息子と共に避難する ※できるだけ川の近くを通らない道を選んで車で避難する	・夫と連絡を取り合う ・停電時の準備をする(クーラーボックスの準備) ・室内から外の様子を確認する
警戒レベル4 避難指示	・避難先で安全に過ごす	・窓がない部屋など、極力雨風があたらない部屋に移動する
▲ 危険な場所にいる場合は、ここまでに必ず避難！		
警戒レベル5 緊急安全確保	★もし、避難できていない場合は、緊急的に安全を確保できる場所や建物の2階以上に移動	

※上の表は一例です。それぞれの家庭状況に合ったものを話し合って作ってみましょう。

マイ・タイムライン作成の 感想を聞いてみました

Q. マイ・タイムラインの存在は知っていた？

ハザードマップは見たことがあるけどマイ・タイムラインは見落としていました。
存在は防災に詳しい知人から聞いたことがあるくらいです。

Q. 意外に必要なだと思ったものは？

備蓄品は用意しているけど、具体的な中身までは確認できていないので準備をしないとけな
いと思いました。

何がいるかなあ？
ゲームとお菓子！

Q. 作ってみて大変だったことは？

前に台風が来た時のことを思い出しながら記入をしたのでそんなに難しさはなかったけど、想像が足りているかが分からず不安だなと思いました。

Q. 話し合ってみて初めて分かったことは？

子どものお迎えは混乱しそうだと思いました。「まず帰って来られるのかな？」「迎えに行くまでの安全は？」「危険なエリアを通る道なのか？」など落ち着いているときに考える必要があると思いました。



令和5年度福岡県防災士養成研修・試験

県では、自主防災組織の活動に参加するリーダーを防災士として養成するため、福岡県防災士養成研修・試験を実施します。

対象者 県内に居住する人で、居住地域の自主防災組織の活動に参加する意思のある18歳以上の人

受講費用 1万2,000円(教本代4,000円、受験料3,000円、認証登録料5,000円)

開催日程 ①11月21日(火)、22日(水)
②12月9日(土)、10日(日)
※①か②を選んで申し込みください。

開催場所 福岡県吉塚合同庁舎
(福岡市博多区吉塚本町13-50)

定員 各日程120人

申込締切日 7月20日(木)

申込方法 受講申込書を役場地域協働課に提出
※受講申込書は町ホームページまたは地域協働課で配布しています。
詳しくは町ホームページをご覧ください。

防災士とは？

「自助」「共助」「協働」を原則として、社会のさまざまな場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人のことです。

福岡県内では、令和5年4月末時点で7,603人(全国11位)が登録しています。

自助

自分の命は自分で守る

共助

地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ

協働

市民、企業、自治体、防災機関などが協力して活動する